

競技委員長ルール講座

品位と格調あるプレーヤーを目指す、燦木会の皆さんはもとよりご承知でしょうが、改めてルールやマナーを再確認するのも良いことと思います。恒例、競技委員長のルール・マナー講座。

競技委員長より一言

燦木会幹事(競技委員長) 中川 彊

夏季オリンピックが今年ロンドンで開催されますが、ゴルフ規則も同じ年に4年に1度改定されます。英国のR&Aと米国のUSGA(全米ゴルフ協会)が共同で作成しています。

ということで、今年改定になった主なものを取り上げてみます。

「球にアドレス」 スタンスに関係なく、球の直前又は直後にクラブを置いた時に「球にアドレス」したことになります。と云うことは、例えばバンカー内ではソールしないのでアドレスするという事は無くなりました。従ってバンカー内で構えていたら球が動いた場合は、罰なしに動いて止まった新しい場所からプレーすればよいということになりました。(これまでは、アドレス後ボールが動いたらワンペナでボールを元の位置にリプレースする必要がありました。)

「アドレス後に動いた球」 これまでの規則では、アドレス後に動いた場合はその理由に拘わらず、プレーヤーが球を動かしたものとみなされワンペナが課せられましたが、2012年規則ではアドレス後に球が動いた場合でも、プレーヤーが原因でないことがほぼ確実であるという証拠がある場合(例えば突風により動かされた)は、罰なしに球が止まった新しい位置からプレーしなければならない...ということになりました。

球が動いた原因が何であったのかは事実問題として判断します。なお、アドレス後に重力によって球が動いた場合は、自然に動いたとはみなされず、ワンペナで球をリプレースしなければなりません。



「球がバンカー内にある場合」 バンカー内に球がある場合で、その球をまだ一度もストロークしてなかったとしても、単にコースを保護する目的で、かつ次のストロークに関して規則13-2(有利になるような行為)の違反とならなければそのバンカー内の砂をならすことが出来るようになりました。また、他のクラブをバンカー内に置いて罰はありません。



ところで、最近 清川CCでのとある競技でのできごとです。6番ショートホールで、後続組に打たせた組があり、その後続組のあるプレーヤからクレームが出され、結果的に打たせた組のプレーヤは、そこでゲームを中止して帰ってしまったということです。規則はこうなっています。

原則としてプレーヤーは自らの判断でプレーを中断することは出来ません。認められる状況で無いのに中断した場合には、競技失格となります。(R6-8)従って後続組に打たせるために、自分のボールをマークしてグリーンから離れてしまった時点で、プレーを中断したことになります。

しかしながら渋滞している場合は後続組に打たせることはよくありますね。打たせても良いのは次の場合です。

- 1) 競技委員が現場に居て指示がある場合。
 - 2) 競技の条件として、委員会が打たせても良いと制定しておく場合。
- で、私達がショートホールで打たせることがあるのは、2)を採用してやっているということにしておきましょう!

名ゴルファーの系図



ボビー・ジョーンズ
1902年～1971年



ウォルター・ヘーゲン
1892年～1969年



ジーン・サラゼン
1902年～1999年



ベン・ホーガン
1912年～1997年

Bobby Jones / アメリカ合衆国ジョージア州アトランタ市生まれ。弁護士資格を持つアマチュア・ゴルファー。1930年、28歳時に、当時の世界4大タイトルの全米アマ、全英アマ、全米オープン及び全英オープンに優勝し年間グランドスラムを達成した。同年引退。当時プロも凌ぐ最高のゴルファーでありながら、終生アマチュアを貫き、「球聖」と呼ばれている。晩年は難病により車いす生活を余儀なくされたが、オーガスタナショナルの設計に携わり、「マスターズ・トーナメント」を創設した功績も忘れがたい。20世紀前半、最高のゴルファー。

Walter Hagen / アメリカ合衆国ニューヨーク州ロチェスター出身。競技ゴルフを確立した往年の名選手のひとりとして知られる。マスターズのない時代、3大メジャー大会の優勝回数は全米オープン2度、全英オープン4度、そして全米プロゴルフが4連覇を含む5度で、総計「11勝」を挙げた。これはジャック・ニクラスが1973年の全米プロゴルフ選手権でメジャー大会12勝目を挙げるまで、44年間にわたりゴルフ界の歴代1位記録であった。1937年10月3日に開場した、東京都小平市にある「小金井カントリー倶楽部」は、ヘーゲンが設計したコースである。

Gene Sarazen / アメリカ・ニューヨーク州ハリソン出身。小柄だが、ショットの名手として知られ、ゴルフの技術革新にも大きく貢献し、「サンドウェッジ」の発明者としても知られている。マスターズ:1勝・全米オープン:2勝・全英オープン:1勝・全米プロ:3勝。現在の4大メジャーによる最初のグランド・スラム。1935年のマスターズ最終日15番ホールで大逆転優勝に繋がるアルバトロスをスコアしたスーパーショットが特に有名であり、コースレイアウトが変わった今日も15番ホールグリーンとフェアウェイをつなぐ橋はサラゼンブリッジと呼ばれている。

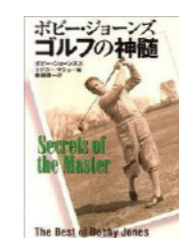
Ben Hogan / アメリカ合衆国テキサス州ダブリン出身。1931年に19歳でプロゴルファーとなった。ホーガンはその現役時代における最強のゴルファーであり、ゴルフ史を通じても屈指のプレーヤーに数えることができるというのが、彼に対する大方の評価である。1938年から1959年の間、ホーガンの選手生活は第二次世界大戦や致命的とも思われた自動車事故で中断されたにもかかわらず、プロゴルフのトーナメントで64勝を達成している。マスターズ・トーナメント:2勝・全米オープン:4勝・全英オープン:1勝・全米プロゴルフ選手権:2勝。



ジョーンズ【著】
菊谷匡祐【訳】
小池書院



ジョーンズ【著】
永井 淳【訳】
ゴルフ・ダイジェスト社



ジョーンズ【著】
前田俊一【訳】
TBSブリタニカ



ヘーゲン【著】
大澤昭一郎【訳】
文芸社



サラゼン【著】
上津原時雄【訳】
ほるぷ自伝選集



ホーガン【著】
塩谷敏【訳】
ベースボール・マガジン社